

『時事直言』 No.1609 2023年6月29日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng/)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

国際戦争、紛争解決役に乗り出した習近平

本年3月10日、水と油と言われ、2016年以来国交断絶が続いていたサウジ・アラビアとイランが中国の仲介で国交正常化した。

習近平曰く「中国は大国として憂慮すべき国際問題に関与し、責任を果たし続ける」。

全中東諸国首脳たちが習近平の存在感の大きさを身に染みて感じた一幕であった。

イスラエルは建国(1948年)以来中東諸国と対立関係にあり、特にイランは不倶戴天の敵。

習近平はそのイランとアメリカの同盟国であり、イスラエルの準同盟国サウジ・アラビアと国交を正常化した。

イスラエルにとっても中東諸国同様に習近平は大きな存在となった。

4月5日から7日までフランスのマクロン大統領は訪中、習近平と首脳会談を行った。

マクロンは訪中前にバイデン(米大統領)と電話で習近平にウクライナ戦争終結の要請をするが、どうかとお伺いをたてた。

バイデンはゼレンスキー(ウクライナ大統領)に、ロシアに勝つまでどこまでも支援する、と言っていることからマクロン一任にせざるを得なかった。

バイデンから言質をとったマクロンは習近平にウクライナ戦争停戦の仲介と、将来の仏中軍事協力関係の取決めをした。

フランスへの帰路、マクロンは「プーチンは習近平の手下になった」、「フランスはアメリカの同盟国だが、なんでもアメリカの言うことに従うことはない」と述べた。

アメリカはイギリス、オーストラリアと共に対中軍事包囲網(AUKUS)の構築を急いでいるが、フランスは中国と軍事協力関係にあるので、アメリカの同盟国であってもアメリカには従わない。

ウクライナ戦争をどうするか決めることができるのは、プーチンが言うことを聞かざるを得ない習近平だけだ。

先日ワシントン DC での国際会議で私が「アメリカの頭脳」に提案した通り、アメリカは中国に払うモノを払って、習近平にかろうじてプーチンのメンツが保てる程度の条件で決めてもらうことだ。

マクロンの要請で習近平はゼレンスキーに電話をしたが、「俺が仲介するよ」と事前に知らせてだけで、もとよりアメリカのピエロなんかには用はない。

戦争長期化をバイデンに洗脳されたゼレンスキーは芸人らしくピエロを演じながら国民を犠牲にして兵器の横流しで私腹を肥やしているチンピラでしかない。

アメリカの軍事産業の在庫が無くなる頃バイデンと習近平が取引をすればウクライナ戦争は終わる。

イスラエルのネタニヤフ(首相)は習近平との首脳会談を7月に行う為の日程調整中。

長年かかってアメリカのどの大統領も解決出来なかったイスラエル・パレスチナ問題を習近平に解決してもらう為である。

国際政治の舞台では、「沈むアメリカ、浮上する中国」である。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。